

ビジョンの目的

- 上野地区の魅力を高める計画的なまちづくりを推進するため、関係者が共有できる2040年代頃の将来像と取組みの方向性を示す

上野の歴史と現状

(1) 上野のむかし < 歴史的背景 >

～江戸・東京の歴史において象徴的な役割を担った

- ・寛永寺とその門前町として発展
- ・武家文化と町人文化の接合点であり、多様な人が行き交う場所
- ・幕末から第二次世界大戦後の復興までの激動の100年における日本の歴史の中心
- ・東日本方面の人にとっての東京の玄関口

(2) 上野のいま < 現況と課題 >

～強い魅力を放つ資源が多数ある

- ・上野恩賜公園に文化・芸術関連施設とみどりが集積
- ・谷中、湯島、浅草等に囲まれ、歴史・文化資源が蓄積
- ・建物の更新が進んでおらず、他都市と比較し商業・業務施設の集積度が低い
- ・公園とまちのつながりが希薄、駅空間と乗換動線が複雑、拠点駅に相応しい顔と広場空間が不足

まちづくりで大切にすること(上野らしさ)

- 世界文化遺産を含む多様かつ高度な文化・芸術関連施設が集積した「杜」
- 多様で特色ある歴史・文化・商業が集積した「まち」
- 積み重ねた「杜とまち」の歴史

上野が求められていること

- 空港直結の日本の玄関口かつ交通結節点としてのわかりやすさ
- 上野に対する人々の期待
 - ・関係者へのヒアリングやアンケート調査等による上野のイメージの把握(誰がどんな体験・営みをしたい場所か)
- 時代の要請
 - ・外国人を含む多様な来街者の増加への対応
 - ・車社会の転換期への対応

上野の将来像

世界の^{すい}粋・東京の^{いき}粋が積み重なる文化・芸術の殿堂

^{すい}粋がもたらす人々の体験・感動・営みが、さらなる^{すい}粋を生み、文化・芸術が無限に成長するまち 上野

I 杜が、世界に誇る文化・芸術資源(世界の^{すい}粋)を極めている(「文化芸術立国」を牽引する拠点)

- 杜をこえた多種多様な場で人々と関わりながら、文化・芸術が創造・表現されている
- 世界の文化・芸術の交流の拠点になっている
- 寛永寺とその門前町という関係性を活かして、寺町としての魅力が向上している

II まちが、多様で特色ある文化・歴史資源(東京の^{いき}粋)を包摂している

- 多様なことを受け入れ包摂(インクルージョン)し、誰もが懐の深さを感じられる
- 時代の流れを超えて、個性ある商業文化が、独自の発展を遂げ続けている
- 日本を代表するものづくり技術が、新しい世代に伝承され新たな価値が創造・発信されている
- 地域の祭り等の伝統行事や生活が、新たな世代や住民に受け継がれ洗練されている

III 杜とまちとそのつながりが、世界中の人々を惹きつけ、そこでの^{すい}粋を生んでいる

- 世界中の人々が、杜とまち全体を見渡し、自由に行き交い、体験・感動している
- 杜とまちでの体験・感動が世界中に発信され、惹かれた人々が次々に上野を訪れる
- 杜とまちでの体験・感動をきっかけに、惹かれた人々が上野で新たな営みをはじめている

取組みの方向性

杜を磨き、杜をひろげる

文化の杜と連携して検討

- 杜・駅・まちを活用した、文化・芸術の創造・表現の場をつくる(創造・表現・展示等の機能の強化)
- 杜・駅・まちを活用した、文化・芸術の交流の場をつくる(交流・発信・研究・人材育成・インキュベーション機能や、宿泊・滞在・サービス機能等の強化)
- 杜全体を支えるマネジメント体制の構築

まちを育て、まちをひろげる

まちづくり部会を中心に検討

- 杜・駅・まちを活用した、世界中の人々を惹きつけ迎えられる場をつくる(まちの資源の発信・案内機能や交流・インキュベーション機能、宿泊・滞在・サービス機能の強化)
- さらなる来街者を迎えるためのエリア防災力の向上
- 積み重ねた歴史が息づくまちの景観や賑わいの魅力の維持向上
- 上野で住み、働くための都市機能の強化
- まち全体を支えるマネジメント体制の構築

杜とまちを重ね、つなげる

基盤整備部会を中心に検討

- 杜とまちが重なる場所に、杜とまち全体を体験・感動できる機能の導入・誘導
- 杜とまちを自由に行き交うことができる、人中心の空間活用と歩行者ネットワーク強化による回遊性向上
- 日本の玄関口となる交通結節点として、国際都市の顔に相応しいおもてなし空間の創出
- 上野を訪れ、上野で住み、働くための都市機能の強化

将来像の実現に向けて

- 事業化に向けた検討の深度化
- 杜とまち全体を支えるマネジメント体制の構築
- 世界文化遺産を活用した景観のルールづくり